

第5回 北広島市長期総合計画審議会 議事録

■日時 平成21年12月16日（水） 18：00～20：00

■会場 芸術文化ホール活動室1.2

■出席委員

村山紀昭会長、麻生昌裕委員、伊藤寛委員、宇田川留美子委員、内手進委員、
鵜木一任委員、遠藤智恵子委員、大川壽雄委員、大木克夫委員、大谷恵一委員、
岡喜美江委員、桂裕章委員、川島光行委員、菊池重敏委員、小池隆史委員、斎藤洸委員、
三瓶徹委員、杉本修委員、富田忠行委員、長井敏行委員、根岸敏子委員、藤野伸之委員、
槇武弘委員、森永正造委員、吉田俊一委員、吉田正男委員

■欠席委員

岡本若子委員、穴田廣光委員、鈴木康照委員、森國聡委員

■事務局

高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、前野康弘総合計画課主査、
川村裕樹総合計画課主任

■傍聴 1名

1 開 会

欠席委員および配布資料の確認を行った。

2 会長あいさつ

【会長】11月には、各部会2回ずつ、じっくりと議論をしていただいたようだが、その結果を踏まえて、主に重点プロジェクトについて議論を行いたいと考えている。市民説明会が5地区で開催されたが、残念ながら参加者がかなり少なかったということで、今の時代の状況の先行きが見えづらく、まちづくりについても議論の関心として出づらいうことが背景にある気がする。しかし、我々は、そんな中でも、今後の10年間の北広島のまちのあり方を市民サイドから議論し、煮詰めていく責任があるので、引き続き積極的な議論をお願いしたい。今日はまず、基本計画の各部会での議論の状況を、部会長から説明してもらいたい。その上で全体会議として若干の質疑をして、内容を大体固めていくことになる。あとは残っている課題を確認することで終わりたい。今日の主題は先ほども言ったように重点プロジェクトなので、そちらに時間をできるだけ割きたいと考えている。

3 議事

(1) 基本計画について

【会長】 それでは、各部長から手短かにこれまでの部会での計画に関する議論の内容についてご報告をいただきたい。

各部長から「専門部会報告」資料に沿って部会での議論内容について報告があった。

【会長】 簡潔に説明をいただいたが、何か質問などはあるか。今の報告に関わらないものでも構わない。今日、提示している基本計画（案）が、ほぼ最終案になるものと思う。これに達成目標が加えられて原案という形になる。まだ、完全に確定というわけではなく、今後も議論をしながら微調整を図っていくことになるが、大きな部分ではこれで変わらないという共通認識を持ちたいと思う。

今後どのように計画の議論が進められていくのか、達成目標の件も含めて事務局から説明してもらいたい。

【事務局】 今日、配布した基本計画は概ね了解していただいたということで、あとは各節ごとに達成目標を設定し、総合計画の進行管理・評価をしやすいものとしていく。指標の内容については、市役所内で担当部局からも掲示してもらっており、ある程度そろっている。これについては1月の審議会を確認をいただきたいと思う。指標を追加すれば、基本計画部分は最終形ということになる。ちなみに、達成目標の具体的なものとしては、例えば、環境の保全であれば、施策の次に続けて「環境基準の達成率」などを指標に掲げて、現状の達成状況の値、中間年度の目標値、最終的な達成目標を示して進捗を管理していく。そういった形で達成目標を考えており、各節に2～3程度の指標を入れ込み、進捗を評価していくことを考えている。なお、総合計画の全体の構成については、序論、基本構想、基本計画の3つに大きく分かれる。序論は既にほぼ固まっている。今から審議会で議論をするようなことはないと考えている。基本構想については、今あるものに加えて将来人口について追記する予定である。この部分は検討した上で後日提示させていただきたい。基本計画については、1～6章まではほぼこの場で了解が得られたということになるが、このほかに重点プロジェクトを加えることと、地区別の方向性ということも考えていくことになる。また、基本構想部分になるかもしれないが、土地利用についても考えていく必要がある。既に現在の案にも記載はしているが、現行計画のように地図上に表していくような示し方も考えていかなければいけない。

【会長】 前回の総合計画には達成目標というのはなかったが、全体会議でも意見が出たように、これまでの計画はある意味でつくりっぱなしだった。最近の手法として、達成目標をあらかじめ盛り込み、PDCAサイクルで計画を動かしていくという考え方が広がってきているようだ。そういう流れも含め、ぜひこういった考え方を取り入れてきたいと考えているようである。先ほどは事務局から数値目標でわかりやすく説明してもらったが、ものによっては数値で計れないような施策もあると考えられるため、そういったものは定性的な評価も考えていくことが必要だろう。これはまた1月の会議で議

論していただきたい。また、地区別の計画については、事務局で現在検討中で、しっかりとした方向性は出ていないようである。あまりしっかりと地区別に行くことを書きすぎるのはどうか、という指摘もある。ただ、地区が分断されていて、地区ごとの特徴がかなりあるという点では、地区ごとの特徴に合わせて施策を検討して、それらをうまく融合して北広島全体の取組みを進めていくのがいいのでは、ということ個人的には考えている。あまり地区別にやりすぎると全体としてどうなのか、という議論にもなると思うが、検討した結果を1月に事務局から出してもらい、そこで議論をしていきたい。

【委員】 ずいぶんと細かく検討していただいたと感じている。個人的には全体のことはよくわからないが、交通の面で不便だという意見が多いので、そういった面に対する対策が前面に出てくればいいとは思っている。

【委員】 第6章の「計画の実現に向けて」という部分について、過ぎ去ったことは別として、この10年間で何を実現するのかというのが一番重要なことで、市民が本当にやってもらいたいという切望度合いの高いものになってくると思う。その点では、極力目標設定できるものについては目標設定して、市民にも目指すところを示していくべきだし、会長が言われるように数値化できないものもあるだろうから、そういったものはなるべく市民にニュアンスが伝わるような工夫をしていくことが、市民により身近な計画として感じてもらうことにつながると思う。一つ残念なのは、財政の健全化の部分で、書きぶりが受動的な感じを受けることである。もう少し市としても市民からの提言等をもらいながら、歳入を増やす方策を検討してほしいと思う。それから、第6節の「政策評価の充実」について、現状と課題はこのとおりなのだろうが、この計画で進める10年間の基本的方向が、抽象的な表現の1行で済んでいるというところが残念に思う。「評価手法の拡充とさらなる活用を促進する」とあるが、一般的には何をどうしようとしているのかわかりにくい。できればもう少し肉づけをしてほしい。私としては、市民一人あたりでの指標に置き換える工夫、例えばごみ処理であれば1グラムあたりの処理単価など、市民がわかりやすい計量単位で進行度合を表示できればいいと思う。そういうことをしていくことで、市民の実践力などにつながっていくのではないかと。最後の重要な部分で、もう少し工夫がほしいというのが感想である。

【会長】 重点プロジェクトの部分でも詰めていきたいと思っている。部会の中でも、こういう計画というのは行政側がする、あるいは行政にしてもらおうという視点が強いが、行政と市民が一緒になって、行政はこういう政策方針を掲げる、については、市民はこう活動する、といった視点があっていいのではないかと発言があった。それは非常に有意義な指摘だと感じている。そんな議論も後でまたしたいと思う。

【委員】 第4章の農業の部分で、就農者の状況をみると、認定農業者は57人しかおらず、しかもそのうちの58%が60歳以上となっており、このままで10年後にはどうなるのだら

うか、ということを考える。北広島の農業はどこに行くのか。札幌に吸収されてしまうような都市型の農業なのか、北広島独自の農業体系をつくり出していくのか。農地は荒れてしまっているところもあるし、農地が工業団地や大きなマーケットになったりしていくが、後継者のいない農業はありえるのだろうか。商業をみても後継者がいなくて店をたたんでいる状況で、活気のない農業、商業になっていくのではないかと不安になる。後継者がいなくて、農地だけが残されていくかもしれない中で、行政や農協と連携して真剣に考えていかなければ、いずれ衰退してしまうのではないかと懸念を持っている。

【委員】 大学との連携の部分で、固有名詞を入れないということで道都大学の名前を入れないということになったが、せめて「地元の大学」という言葉を入れた方が良かったのではないか。北広島市は北大や札幌学院大などと連携もしているので固有名詞を抜くのはいいが、道都大学との連携は大きいので、「地元」という言葉を入れた方がいいのではないかと感じた。

【会長】 具体的な指摘だが、これについては私と部会長と事務局に預けていただきたい。固有名詞を1か所ぐらい入れるといった手もあるだろう。あまり目立ち過ぎるのもどうかと思う。部会での議論は、このまちには実際に道都大学だけではなくて、住んでいる人では他大学の学生も数多くいるし、先生方も多く住んでいるということを大事にしようという議論だった。だからといって、固有名前を消す必要があるかという問題は確かにあるので、ちょっと検討させていただきたい。

(2) 重点プロジェクトについて

【会長】 各部会長から説明をもらいたい。

【部会長】 人口を増やす、ということが基本になるという意見があった。また、高齢者などに対して、「安全・安心」ということも挙げられた。また、重点プロジェクトは、現行計画を引き継ぐことも重要だろうという認識に立って検討を行った。子育て支援のプロジェクトは、現行計画にもあるプランであるが、これらを引き継ぐべきだろうという考えで記載している。詳細については、今後の議論の中で検討してもらえればよいと思う。地域ネットワークのプロジェクトについては、先ほど会長から話があったように、行政だけに任すのではなく、地域住民、企業が行政と連携していく必要があるだろうという観点で整理している。安全・安心の視点を入れて、人口を外に出さない、外から入ってきてもらうという人口増加の側面がある。まちの魅力のプロジェクトも、人口増加の視点で、魅力を上げなければ人が入ってこないという視点で掲げている。やすらぎのプロジェクトについては、安心・安全というまちづくりを進めるためには、やすらぎのあるまちづくりが必要だろうという視点から、環境配慮などに関する項目を挙げてい

る。

【部会長】 いずれも、最終的には他の部会の部分に統合できるような内容だと思う。生き生きするプロジェクトについては、4番目に書かれた「心構え」が大事なのだと考えている。具体的な政策というよりは、「明るいまち」といった熱意を整理したが、実際にテキストになるとそういった想いが薄れているようにも思う。にぎわい創出プロジェクトについては、整理してもらったものが当初のイメージと少し離れたような気がする。北広島市は基本的にはJRで帰ってきて、バスに乗ってあるいは歩いて家に帰るだけのまちだと思う。賑わいという言葉は耳あたりのよい言葉ではあるが、もっと雑然としたイメージの取組みが必要だと個人的には考えている。

【部会長】 事務局が提示した3つのプロジェクト案がどれもいいのではないかとということで、表現をそのまま使っている。農業について最も議論が多かった。また交通システムについての議論も多く、現実的なことを考えると公的負担、受益者負担という部分についてもっと検討していくことが必要だという認識ではあるが、項目として挙げている。部会としては掲示してもらったものが、ほぼ集約されているだろうということで考えている。最後に、総合計画の進行管理について、市民に対して説明をしていくことが必要であり、重点プロジェクトではないかもしれないが、計画書の中にしっかりと謳っていくべきだろうという意見があった。

【会長】 それぞれの部会の記録を読むと、部会での重点プロジェクトについての議論は今の報告よりももっと白熱しているところもあり、今は随分きれいに報告してもらった。今日は重点プロジェクトを決めるわけではない。いろいろな議論を重ねて、少し方向性をまとめられればよいという程度で考えている。

【部会長】 白熱した議論がいろいろあった。まず、「プロジェクト」という表現だが、「プロジェクト」と言う以上、達成しなければいけないという迫力を持って作成していかなければいけないだろう、ということがあった。また、それを推進するチームとして「プロジェクトチーム」をつくって、いろいろな施策を実施して評価を受けるという形にならないかと個人的には思っている。この部分については活発な議論があった。また、基本計画の中に書いていることを「重点プロジェクト」としてまとめても、もともとちゃんと書いてあることの寄せ集めにしかならないのではないかと、という指摘もあり、重点ではなく総合ではないかと、プロジェクトではなく現行のようにプランでいいのではないかと、といった意見もあったので、追加で報告させていただく。

【会長】 この辺は、確かにそういう面もある。達成目標の明確なものを重点プロジェクトにするということであれば、他の項目は達成しなくてもいいのかということになるし、もう既に充分各施策の中でやるべきことは挙げられている中で、特に重点プロジェクト

として打ち出すことにどういう意味があるのか、この点は整理しておかなければならない。ちなみに、前回は「重点プラン」という呼称だったが、これも趣旨はわかりづらい。非常に抽象的な、理念のようなものに見える。前回は5項目掲げていて、一般的なプランからサイクリングネットワークという具体的なものまで一緒に入っている。この重点プラン策定に関する経緯などはわかるか。

【事務局】 前回の詳しい経緯はよくわからないが、現在検討している計画については、章や節にいろいろな施策がまたがっているが、そのままだと縦割りになってしまうので、関連ある施策を1本にまとめて、総合的に横軸をきちっと取り合いながら、一つの大きな括りとして総合的に推進をしていきたいというのがプロジェクトの考え方である。現行計画の重点プランについては、当初標榜したような形で実施できているかということ、必ずしも現実はそうはなっていないという部分も認めざるを得ない。そのため、今回、いわゆる重点プロジェクトのような形で立ち上げるときは、先ほど部会長が言われた「プロジェクトチーム」なども含め、何らかの形でフォローしていくシステムが必要だと感じている。

【委員】 私も、プロジェクトであれば、基本的には誰が、どれだけの要員で、どれだけの投資をもって、何を生み出すか、それをはっきりしてやる必要があると、そこが明確でないと、縦軸を横で包んで何かを動かすように言葉ではまとめても、実際に生み出すことのインプットとアウトプットがわからないのではないかと思う。ただ、行政としては、事細かに各課別に目標があるよりも、全体として「こういうものを目標にして推進したい」という重点的な表現が非常にわかりやすいと思った。実際にどうやるのかは多少疑問ではあるが。

【会長】 今の話もそのとおりだろう。普通、プロジェクトというと、具体的な内容を意味するが、今回の発想はそういうだけではなく、むしろ縦割りではなくて横軸で、という意識が強いように思える。

【委員】 これがハードであれば結果で見えるので、何をどうつくり上げたかがわかるが、今の時代はハードではなくソフトが求められる。プロジェクト自体が新しいソフトを生み出して、人が集まって、新たな運動や価値ができるとしたら、これは非常に大きいことだろうと思う。

【会長】 プロジェクトを打ち出す意味は、行政も市民も何か共通の旗印になり得るという点で意味がある。「アクションプラン」と言ってもいいのかもしれない。

【委員】 事務局の発言も苦しい説明になることはよくわかるが、縦割りの行政組織を横にリンクして、人・物・金を用意して数値化し実現するというのは、相当の覚悟と努力を

もってしないと厳しいと思う。実際にプロジェクトの手法を理解している人が見れば、「こういうふうにするのだな」というのはわかっていただけるのかもしれないが、市民からみれば「達成してくれるもの」という期待として認識されると思うので、プロジェクトという表現は慎重に考えなければならないと思う。また、総合計画の構成を考えたときに、「まちづくりのテーマ」と3つの「めざす都市像」という4つの屋根がある。その4つの屋根以外に重点プロジェクトがあり、さらに各章・各節があり、ということでは屋根の意味合いがぼけてしまわないか。プロジェクトを掲げるのであれば、基本目標として掲げられた6つの目標の上に入れた方が、市民にとってはわかりやすいのではないかと思う。完全達成の期待でなくても、ある程度の期待は持っていただけるのではないかと思う。基本目標のダイジェストのような形で掲載したほうがわかりやすいのではないかと思う。そうすると、ある程度包含的に取り組む要素も出てくるだろう。

【会長】事務局で「プロジェクト」として提案してきたのであるから、大いにやってもらえればと思うが、一方で絵に描いた餅では意味がない。今の意見についてだが、テーマと都市像は理念のようなもので、その下に6つの目標があり、個別の政策に至っている。この構成自体が、市民の目線で見たとときに、本当にしっかりと見えるのだろうか。しっかりと読み込めばわかってもらえるとは思いますが、メリハリが見えずらいという気がする。私は、重点プロジェクトというのは、総合計画に関する市民サイドからの「見える化」、総合計画のエッセンス部分を見えやすくするものだと思う。そして、併せてそこに行政と市民が一緒に取り組むべきことを示す。行政が「この重点に取り組む」ということだけではなく、市民が加わっていくきっかけになるようにすべきだろう。これだけ膨大な計画だと、個々の政策に対しては部分的にしか関わりようがない。まちづくり全体に対して、意識的な市民が関わろうとしたときのとっかかりとして、プロジェクトがあるべき。そういう意味で、総合計画は非常に包括的で総合的なものだが、プロジェクトを通して、市民に対して「見えるもの」、「関わりやすいもの」にすることが重要だろう。そして、その進行管理も行うということだと思う。

【委員】プロジェクトは、人が参画してソフト的なものが生み出されていくものであれば、行政も市民も情熱を持って参加し、市民の力で動いていくようにならないとだめだと思う。そのためにも、できればみんながわかりやすいシンボリックなまとめとしてプロジェクトというものを使うのがベターだと思う。市と職員が市民とともに、何かここから変えていく決意があれば、非常におもしろいまとめになると思うし、ぜひやってほしいと期待する。

【委員】市民サイドから見たとき、プロジェクトと言われてもすぐには理解できない。基本計画が1～6章までわかりやすい見出しがついていて、これはいいと思うのだが、「プロジェクト」という言葉が長期総合計画に入り込んでくる感じがわかりにくい。副題でも結構なので、わかりやすい言葉をつけていただければいいと思う。

【委員】 私も最初、宿題として出されたときには理解できずに悩んだ。私の理解は、プロジェクトというのは新聞でいう見出しなのだろうと思っている。長い文章は読まない。熱意が失われた感じという部会長の言葉はまさにそう思う。市民に熱意が伝わるような、アピールする形で記載していく必要があるだろう。プロジェクトという言葉が悪いのではないか。「こころざし」は少し違うかもしれないが、市民がわかりやすい言葉に置き換えたほうがいいのではないか。

【会長】 私も当初から、膨大な量の計画にはメリハリが必要だろうと考えていた。それは見出しという考えとも同じ発想だった。ただ、その後少し考えてみて、総合計画の中において、市民がソフト的に関わるということが重要だと考えるようになった。箱物のプロジェクトではなく、市民行動のアクションプランであっていいのではないかと。そのときに、市民にわかりやすい形を考えて色々な意見を聞いていく中で「共通の理解」という部分があるのだと思う。「やっぱり人が集まってくるようにしたい」、「もっと活気が出るようにしたい」、「生き生きと暮らせるようにしたい」、「子育て環境をよくしたい」、「医療が万全になってほしい」、「農業や産業を活性化したい」などについて、アイデアもいろいろと出ていた。そのほとんどがソフトだったと思う。問題はそれを総合計画として進めるときに、それが見えるようにするための市民と行政の結集点が「プロジェクト」ということなのではないかと思う。確かに示されたものはやや綺麗すぎる気がする。一般市民からすると、「市役所は本当にやるのか」、「お金は大丈夫なのか」といった程度でしか見られない。市民に対して、「あなたも関心があれば参加してください」という部分や、進行管理をしていくという部分が大事だろう。総合計画推進課などというプロジェクトを実行するセクションができ、その進行管理をするセクションもできて、そこに市民も参加できる。そういったイメージが考えられる。産業・都市部会では、委員会をつくってはどうかといった議論まであったが、それは難しいにせよ、プロジェクトに参加する形で市民も総合計画の視点から関わっていくことが大事だろう。

【委員】 この総合計画を実現するために、さらにさまざまな個別計画があり、委員会や審議会がある。その数値目標を踏まえた上で、成果指標などの検討を行っているのか。北広島団地活性化計画の答申書ができているが、どう反映されているのか。この場だけで論じていて、成果指標をつくるということにはならない。下位の計画や会議でどういった目標や成果があるかという部分を押し量って検討する必要がある。私は、委員が言ったように、総合計画プロジェクトのような形で、この計画がどう実行され、どういう効果があったのかという末端の部分の評価・点検することがプロジェクトの果たす意味として大きいのではないかと思う。子育てや福祉ということではなく、この計画をしっかりと推進していくということをプロジェクトとして掲げていくほうがいい。福祉だけでも相当の数の会議や計画がある。それをひとつにまとめるなんてことをやろうと

するととても難しいし、市民の目線でというとなおさらだろう。それよりも、どう進めるかをわかりやすくし、それをどう評価するかという仕組みが大事だと思う。

【事務局】 確かに今はそういう取組みがなされていない。これまでは、総合計画を策定するための課として総合計画課が時限的につくられ、策定後はなくなる。進行管理は、政策調整課が担当しているが、各部、各課でやっていることを追跡して確認しているのが、進行管理の現状である。

個別計画や審議会がたくさんあるという指摘については、計画の進行管理にまでは携わっていない状況である。なかには、総合計画の進捗を個別の計画や審議会などに任せるといった事例も他市町ではあるが、北広島市ではそういう形にはしないで、達成目標を総合計画の中に全部集めておこうと考えている。例えば、福祉関係などでは、5つ計画があるが、数値目標を挙げているものはほとんどない。そのため、指標については趣旨に合うものを担当部局で考えてもらうことにしている。それによって、個別計画や担当した審議会の考えと整合性の取れた指標が総合計画に掲載できると考えている。総合計画全体を評価する際には、それらの指標を使っていけば、大雑把ではあるがわかりやすい評価ができるのではと考えている。

【会長】 北広島団地活性化計画の内容が総合計画とずれていてはいけないと思う。総合計画の中に、北広島団地活性化計画なども組み込まれていなければならないだろう。たくさんの計画がある中で、すべての事業を総合計画で飲み込むことは無理で、総合計画は全体的に包括できるようつくりしておく必要がある。

【委員】 部会で具体的に議論をし、いろいろと広がった議論になったが、他の部会と連携してどうまとめるかと思っていたら、さすが行政というまとめだった。うまく連携させて整理してくれている。それと、もう一つ思ったのは、一つ一つの章を各部局が担当しているので、予算と人は全部1個1個につくことになり、全体で動かすときにはどうしても横軸よりも縦軸に動いてしまうのだと思う。今の国家も地方の行政もその矛盾で悩んでいる。そのときに、10年先の総合計画の中で、各部局が一つ一つやっているものを、少なくとも10年先を見据えた総合計画の目標に対して妥当性があるかどうかをしっかり考え、また次の10年につなげていかないと、目標や方向性を見失いやすいだろう。そのために、進行管理やそのための組織化を考えたらどうかということを部会で提案させてもらった。

【委員】 進行管理について意見を述べさせてもらおうと、北広島団地活性化計画では非常によくまとめられ、よい答申を出したと思っており、「新たな方式で進めることが望ましい」、「そのあり方や計画をマネジメントする仕組みについて検討を進めることが重要」という部分は、総合計画の参考になるのではないか。やはりこれからは、計画の実施のポイントになってくるのは政策評価のシステムだと思う。総合計画の中でも、第6

章といった個別の章ではなく、序論や総論などで記載をしてもらいたい。

【会長】 時間も少なくなってきたので、私なりの整理の方向性を掲示したい。まずプロジェクトについては、名称は検討が必要だが、重点プロジェクト自体は設定しようという市の意欲を汲んで、基本的に設定することとしてはどうか。ただ、何らかのアクションにつながる具体性が必要だろう。考え方としては、今後10年間のまちづくりを考える上で、市民として実現してほしい、実現したいということがわかりやすく掲示されるものをつくる。そして、掲示されるだけでなく、実行され、成果を挙げるために、進行管理するための仕組みが必要。節ごとに指標が設定されるとはいえ、そのすべてを管理するのは大変なので、プロジェクト単位での管理をしっかりとできるようにしてほしい。プロジェクトは、縦割りの基本計画に対して、横断的に抜き出していくような形づくりあげてほしい。例えば、具体論になるが、子育て支援のプロジェクトについて、子育てだけではなく「子育て支援・若者元気プロジェクト」、あるいは「子育て支援・市民元気プロジェクト」など、若者が生き生きといろいろなことをやる、お年寄りがどんどんやるといったことも入れていく。そうすることで、縦割り構造にならないように、意識的に横断的な形にすることが重要だろう。行政任せではなく、市民が参加する旗印になるようなものであることも重要だろう。まちづくりのあたらしい方向として、市民が行政と協働することによって実行していくようなプロジェクトにする。以上、4つ程度の意味づけをして、重点プロジェクトを立ててみてはどうかと思う。その上で、最初の子育てプロジェクトは、もう少し幅を広げて考えてほしい。地域ネットワークプロジェクトはちょっとわかりにくいので、安心・安全の地域ネットワークプロジェクトという形で、医療や産婦人科の問題、子育てに関する安心や障がい者の話なども入ってくるだろう。3つめは賑わいだろう。賑わいとまちの魅力プロジェクト。ここには農業の話などを入れ込んでいくということではどうか。ここで挙げる項目は、すべてしっかりとやれるもの、やりぬくものを記載する。産婦人科の問題は大変だが、産婦人科病院を建てるということは書けない。相談のネットワークなど「支えるしくみ」をつくって、子どもを産むのに不安がないような体制を構築していくというようなことを考えていくべきだろう。それも、もたもたと10年をかけてやるのではなく、2～3年である程度形をつくらなければダメ。そして、これら総合計画を管理していく仕組みを構築していくという考えではどうか。第6章にいろいろと書きたいこともあると思うが、「総合計画進行管理課」をつくれといっても、これは難しい。このプロジェクトを立てる中に、せめてそのプロジェクトに対する担当セクション、チームを、部局を再編することはできなくても、チーム編成ぐらいできるだろうと思う。例えば、子育て・若者元気プロジェクトなら、経済部からも教育委員会からも1人ずつ出して、そのほか福祉部も1人ずつ出してもらって、庁舎内にプロジェクトチームを3～5人でつくることのできるだろう。そのプロジェクトチームに、アドバイザーを入れたり市民ボランティアを募る。一緒にプロジェクトを推進するプロジェクト委員会は、行政と市民が協働するというイメージぐらいなら打ち出しても大丈夫ではないか。

【委員】 会長の整理された方向性は非常に重要なので、全会一致としていければベターだとは思いますが、3番目に言った「横断的」という部分は、部局を新設するなら条例改正が必要だろう。そこまでやらなくても、任意にスタッフを集めてつくるプロジェクトチームをつくるとなると、具体的にどのぐらい集めて専念できるだろうか。また、どの程度の人たちが実働で動けるのか。単に横断的にととっても、担当部長がだめ出しをするようなものでは意味がない。

【会長】 さすがに、私のイメージなので、部長がいまここで、そういったことまでは答えられないだろう。

【事務局】 確約はできないが、部長や課長が都度、プロジェクトに応じて動くことはできる。月に一回程度の会議などは問題ない。個々の縦割りの事業を摺り合わせて、より連携して効果を高めるための取組みはできるだろう。ただ、そのときに、目標に対してどのように総合的に考えて、個々の施策を組み立てていくかの議論が大変だろうと思う。統一的な事業としての組立てを結んでいくことが、今後の議論になると思う。

【委員】 事務局の話を見ると、ほとんどフィックスできているということだが、これから提案されるものについて、後で部会で議論する程度なのか。愚痴を言わせてもらおうと、結局いろいろと議論をしたが、やはり新しい提案がなかなかできていない。やはり積み上げてきたものを、我々が「これはまずいだろう」と変えることが難しいのか、これまでのものをベースに少し手を入れた程度になってしまっている気がする。市民として、いいものができたという印象を持ってない。総花的なものになっていると思う。

【会長】 そういう部分をもっと重点プロジェクトとして出していきたいという考えを私は持っている。そうしなければ従前の形と変わらないものになってしまう。

【委員】 実現がわかりやすいようにする、達成するものであるということを示すことがとても重要だと思うが、そこに市民が参画するような形にぜひしてほしい。各地区で実施した説明会への参加が少なかったことをみても、生活に密接につながっているということが市民に伝わっていないという現実がある。ここでした議論が10年後にみたときにしっかりと反映されて、実現されて、10年後にまた総合計画策定の議論をする際に「ちゃんと反映されるんだ」ということが実感として伝わるようなものにしてほしい。

【委員】 私も最初は違和感があったが、部会で出した意見を事務局がうまく重点プロジェクトに関連させて、うまくつなげてくれたという印象を持っている。総合計画はこのように立案するものなのだと、非常に興味した。私が「委員会をつくって進行管理をやってみては」という提言をしたもう一つの意味として、財政の健全化を絶対に失わないために、重点配分を意識をしていくべきという考えがあった。そういったことも考えてい

かなければならない時代だと思う。最後に、すべてが「このまちをどうしよう」、「子どもたちをどうしよう」と内に向いているように思うが、これからの日本も地域も、中国も含めて、常に外に目を向け、外と内という関係の中に置かれていくのがこの10年だと思う。子どもたちも私たち自身も、常に外への関心、外に対しての意識を持ちながら、自分の地域をどうするかを考えて計画を動かしていければと思う。

【委員】 前々から感じていたが、これまでの総合計画は、行政がリーダーシップをとって進めていくような形で作られていたと思う。それではポリシーが違うのではないかと感じていた。今、協働が盛んに言われている中で、今回は市民参加を軸に置いて総合計画をつくっていかねばいけないと感じ参加をした。これを継続していくと、10年後には、今言われたプロジェクトは、すべて市民のプロジェクトになっているのではないかと思う。何も心配することはなく、市民で運営していく総合計画ができあがる、これが理想だと思う。部署は違うが「生涯学習振興会」という組織が発足しており、この中の委員が全部市民でまとまって、非常に段取りよくスケジュールを組んで、参加人員も増えてきているといったケースもある。市民がリーダーシップをとっている。今回の総合計画では、やはり市民が将来はリーダーシップをとって、プロジェクトは全部市民が運営していくといったイメージをどこかに置いて作成していくことが望ましい。

【会長】 行政主導の総合計画でないという部分を、プロジェクトという形で示していきたい。内容はまだできていないが、1月に向けてまた事務局で検討したいと思うし、必要に応じて部会長に集まってもらい議論をしたいと思うので、よろしく願いしたい。

4 その他

今後の日程について、事務局から説明を行った。

5 閉会